

はじめに

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っているヤングケアラーについては、ケアが日常化することで学業や友人関係等に支障が出てしまうなど、個人の権利に重大な侵害が生じているにもかかわらず、本人や家族に自覚がないなどの場合もあり、顕在化しづらいことから、支援を必要とするヤングケアラーに、周りの人が気づくことが難しいと考えられます。

このため、社会的認知度の向上を図るとともに、福祉、介護、医療、教育等の関係者が情報共有・連携して、早期発見・把握し、本人の意向に寄り添い、家庭に対する適切なアセスメントにより世帯全体を支援する視点を持ちながら、必要な支援につなげていくことが重要です。

本書では、小中高の学校や市町村、社会福祉法人による支援事例のほか、民間支援団体の活動内容について掲載しています。実際の支援事例等を通じて、支援のきっかけや子ども本人や世帯と関わる際のコツなどを紹介していますので、みなさんが、今後、ヤングケアラーに気づき、支援を検討する際、「どんな支援が考えられるだろうか」「どのようにご家庭とコミュニケーションをとったらよいだろうか」「誰と連携したらよいだろうか」等と思われたときに参考にさせていただきたいと考えています。

今回、支援事例の取材をする中で、「頼ってもよい大人」という言葉を複数の方からお聞きしました。先に述べたように「支援を必要とするヤングケアラーに気づくことが難しい」状況があることから、子どもたちの周りにはみなさんに、ぜひ、子どもたちにとって「頼ってもよい大人」になっていただき、子どもたちや世帯の困りごとに気づき、声をかけていただきたいと考えています。

本書が、学校や福祉、民間支援団体などの子どもたちに関わるみなさまのヤングケアラー支援の一助になれば幸いです。

本書の監修を務めていただいた水添添綾さんをはじめ、取材にご協力いただいたSSWや学校関係者、自治体、社会福祉法人、NPOのみなさま、コメントを寄稿いただいた大阪公立大学濱島淑恵准教授ほか、ご協力いただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。

目次

・ヤングケアラーとは	2	・社会福祉法人の事例	
・小学校の事例		— 世帯全体、親子ともに寄り添う支援	9
— 早期発見・支援の大切さ	3	— コラム4 スクールソーシャルワーカーと	
— コラム1 アセスメントとプランニング	4	— コミュニティソーシャルワーカー	10
・中学校の事例		・豊中市の事例	
— エンパワメント視点を大切にしたい支援	5	— ヤングケアラー相談窓口が中心となって取り組む支援	11
— コラム2 ジェノグラム・エコマップを書いてみよう	6	— コラム5 断られてしまったら、	12
・高校の事例		・み・らいず2（民間支援団体）の事例	13
— 卒業後の生活を想定した進路支援の大切さ	7	・ふうせんの会（民間支援団体）の事例	14
— コラム3 学校の中の「居場所」	8	・「ヤングケアラー」という視点を取り入れる意義	
		大阪公立大学濱島淑恵准教授から	14

本書の監修
水添添 綾氏（一般社団法人 こもれび 代表理事、
大阪府教育委員会SSWスーパーバイザーほか）

本書の使い方

本書では、世帯の状況や支援内容のほか、支援のきっかけやポイント、そして、今後みなさんがヤングケアラーの支援にあたってヒントになるようなことを中心にまとめています。また、各ページの右下には、監修の水添添綾さんのコラムを掲載しています。

ヤングケアラーやその世帯が抱える課題や置かれた状況は様々であるため、本書の内容がそのまま当てはまる事例はないかもしれませんが、いずれも試行錯誤を重ねられた取組みばかりです。支援を始めるときや支援に迷ったときの参考にしてください。

*本書では、個人が特定されることのないよう事例の一部を改変しています。

▼ 次の単語は略称を用います

スクールソーシャルワーカー：SSW、コミュニティソーシャルワーカー：CSW、要保護児童対策地域協議会：要対協

● ヤングケアラーとは

一般に、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行っている子どもや若者のこと。責任や負担の重さにより学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

<ヤングケアラーのしていることの例>



障がいや病気のある家庭に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家庭に代わり、あいさつなどの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家族のために一生懸命にケアを担っていることも

本人に自覚がない場合も

ひとつだけでなく、複数のケアを担っていることも

家庭内のデリケートな問題であるため、表面化しにくいことも



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家庭を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家庭に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気のある家庭の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

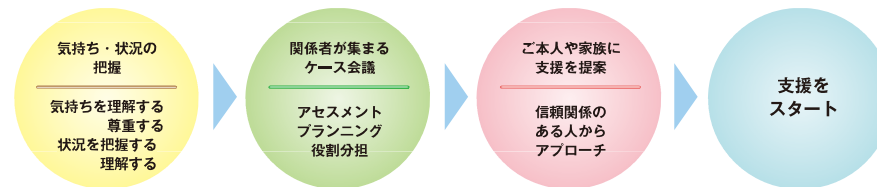


障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

● 支援のステップ

みなさんの周りには支援が必要かもしれない子どもたちと接するとき、次のステップを参考にしてください。

支援が始まった後も、繰り返しケース会議を開き、本人や世帯の気持ちに寄り添った支援になっているか確認しながら支援を進めましょう。



● 子どもたちの想いと会話のヒント

ケアを担っている子どもたちは、次のような想いを抱えていることがあります。

ヤングケアラーかもしれない子どもたちと出会ったときは、この想いを心に留めて接し、信頼関係を築いていきましょう。

- 家族のために自らケアをしたいと思っている
- 支援が必要とは思っていない

ヒント

ケアを大切にしている子どもたちの気持ちを尊重する

- ケアを否定すると、これまでしてきたことを否定されたと感じる
- 家族が責められると自分が責められたと感じる

ヒント

ケアや家族を否定せず、これまで担ってきたケアに劣りの言葉をかける

- 相談しようという発想自体がない
- 自分の家庭しか知らずに育ち、客観的な視点をもちにくい
- 家庭のことを知られたくない
- 話を聞いてもらう機会が少ない

ヒント

孤独を感じやすいので、さりげない声掛けからはじめる

市町村に相談してみる

府内市町村のヤングケアラー相談窓口

大阪府 ヤングケアラー 窓口



より詳しく知りたい方

ヤングケアラー支援に係るアセスメントツール等の使い方ガイドブック

ヤングケアラー アセスメントツール

